

# ムギ類赤かび病情報第3号

平成30年5月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## コムギの赤かび病の二次感染に注意しましょう

### 1 赤かび病の発生状況と降雨量

5月上旬に県内のムギ類ほ場（20地域、各地域5ほ場、計100ほ場）で行った赤かび病の調査結果によると、発生ほ場率は69.0%（平年26.2%）、発病穂率は0.03%（平年0.01%）で、過去10年と比較してそれぞれ2番目、3番目に多い状況でした。

長久手市にある農業総合試験場の4月の降水量は平年値を大きく上回り、14日と15日、17日と18日、24日と25日には40mm以上の連続降雨がありました。5月に入っても4～5日おきに20mmや50mm以上の連続降雨があり、県内の他地域も同様の状況です（図）。このことが、赤かび病の発生要因になっていると思われます。

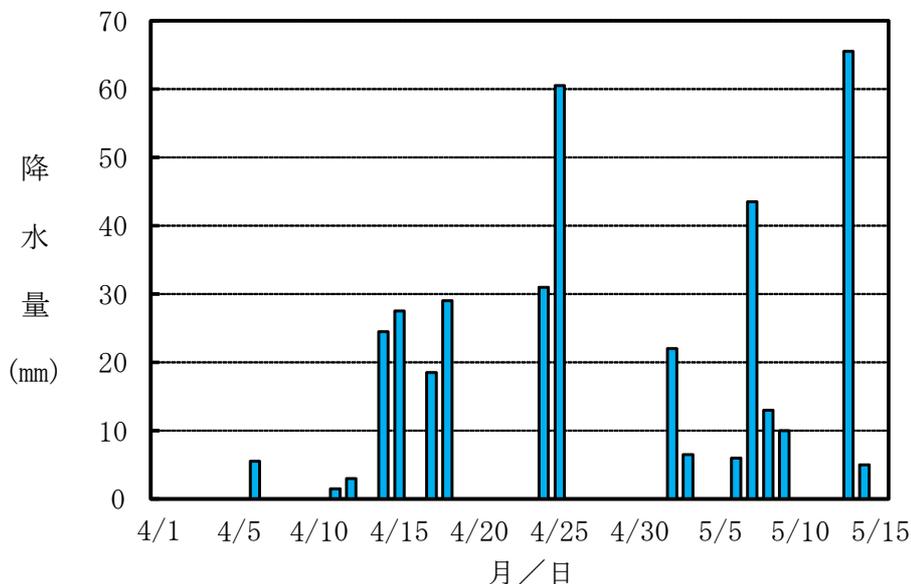


図 農業総合試験場（長久手市）の4月1日～5月15日（2018年）の日降水量

### 2 今後の気象状況と赤かび病の発生予測

名古屋地方气象台5月10日発表の1か月予報によると、気温は高く、特に期間の前半はかなり高くなる見込みです。天気は数日の周期で変わり、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想しており、赤かび病の感染に適した気象が続きます。

### 3 防除対策（小麦）

現在の発病穂が第二次感染源になりますので、ほ場で発病穂が認められ、降雨が予想される場合は、治療効果の高いシルバキュアフロアブル、チルト乳剤25、トリフミン乳剤などで防除しましょう。なお、収穫時期が近づいていますので、使用基準を必ず守って薬剤を選定してください。